



ラーナック城へ ようこそ

This is your guide to LARNACH CASTLE

ラーナック城は現在バーカー（Barker）家の私邸です。バーカー家は長年をかけてこの城が本来持っていた優雅な美しさを復元しました。国内あるいは国外からのお客様が1年中いつでもこのお城を御覧になれるよう、バーカー家一同努めてきました。ラーナック城には公の資金援助は一切ありませんので、お城その他の施設の維持修復にお客様の入場料が使われています。また、このお城は個人の邸宅ですので、その雰囲気をとどめるため貴重な品々や家具類には保護用ロープをはりめぐらせていません。ご見学のお客様にはぜひこの束縛されない雰囲気をご尊重くださいます。これらの物品には手をお触れになりませんようお願いいたします。何千もの手が触れますと物品が修復不可能な状態にまで傷んでしまうことにもなりかねません。

1967年にバーカー家がこの城を取得した当時は、中にはほとんど家具がなく、多くの箇所で雨漏りがするなど悲惨な状況でした。その後、もとあった家具類を貸与、あるいは買い戻させていただいた方々にこの場を借りて感謝の意を表させていただきます。

物品の安全および保護のため、建物内部のお写真やビデオ撮影はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。また喫煙もご遠慮ください。

見学コースのスタート地点は回廊から下に伸びる階段です。

正面入口への外階段の真下に当たる部分に**銃器室（GUN ROOM）**があり、ここには19世紀の猟銃が展示されています。向かいの部屋には、ウィリアム・ラーナック（William Larnach）、城の建設、そしてラーナック家のお城での生活の歴史に関する展示があります。さらに隣の部屋ではバーカー家が城を取得した後のあらしをビデオにより紹介しています。

降りてきた階段を上に戻ります。回廊に沿って右に進み角を曲がった左側には**音楽室（MUSIC ROOM）**があります。出入口の段差にお気をつけください。ここではかつて音楽の夕べや夜会が催されました。ラーナック家の娘たちは皆ここでピアノを練習しました。天井のベイマツ（Douglas fir）の梁はアメリカから取り寄せられたものです。暖

暖炉の上にかかる絵画は、1889年当時のラーナック城、オタゴ湾、および岬を描いたものです。

左側にはジロング（Geelong）で発行されたウィリアム・ラーナックの推薦状が掲げられています。炉床には銅製のコール・キャリア（coal carrier）が置かれています。ひもをつけ背負えるようになっており、召使がこの大きな容器に石炭を入れ部屋まで運びました。

ドーム型のロビーを横切り小さな段差を越えると「執事の食器室」（Butler's Pantry）があり、実際に使用された陶磁器その他の食器が並べられています。そのすぐ先が**食堂（DINING ROOM）**です。

天井のオウシュウナラ（English oak）の羽

目板にはマホガニー材で、花鳥や蝶の彫刻が
あしらわれています。ブドウとツタは漆喰細
工ですが、これはラーナック氏がイタリアか
ら細工人を2人雇い入れ造らせました。この
お城にある大理石の暖炉はすべてイタリア製
です。食堂の壁板はタスマニア・アカシア
(Tasmanian Blackwood) 製です。はめ込
み式の食器棚にはこの階のすべての部屋に用
いられているのと同じテーマの装飾がなされ
ています。

かつてこの食堂に食事を供した台所は192
7年に解体され、現在は残っていません。台
所があったのは下の階です。中庭の周辺と（現
在は廃墟と化してしまった）小さな家屋に召
使が当時住んでいました。

食堂を出ると正面玄関広間（MAIN
FOYER）に出ます。手作りの浮き彫り細工
をほどこしたベニス製ガラスには、イングラ
ンドの象徴であるバラ、アイルランドのシン
ボル「シロツメクサ」、ニュージーランドの
シンボル「銀シダ」、そしてスコットランド
のシンボルのアザミが描かれています。イン
グランドのパネルの中央にはガーター勲章が
あり、「邪悪な考えを抱く者に災あれ」とい
う銘が入っています。一方「あざみ勲章」の
銘は「われに触れる者は無事には済まぬ」で
す。聖者は聖ジョージおよび聖アンドレです。

その上には、スコットランドのヤマネコと座
右の銘「サンズ・パー」（"Sans Peur" : 「勇
敢」）がラーナック家の家紋と組み合わせ描
かれています。猫にかけた「しゃれ」にお気
づきになりましたか？（「peur」と同じ発音
で「猫がゴロゴロとのを鳴らす」という意
味の「purr」という綴りの語が英語にありま
す。）床のモザイク模様書かれている「ザ・
キャンプ」（「The Camp」）というのは、
ラーナック氏がユーモアを込めこの城に付け
たもとの名前です。モザイク板はベルギー
製、セラミックの床はイギリスのストーク
オントレント（Stoke-on-Trent）から取り寄
せたミントン焼きです。羽目板の材料はマホ
ガニー、ニュージーランド産カウリマツ、斑
状カウリマツ（mottled kauri）、それにチー
ク材が使われています。

腰羽目は黒檀とニュージーランドスイカズラ、

ドアはオーク、カウリ、それにマホガニーで
す。天井を見上げてみましょう。この立派な
天井の彫刻は3人がかりで6年半を費やして
完成させました。玄関の外側の戸棚はタスマ
ニアのヒューオンパイン（Huon pine）で
できています。

玄関脇の白絨毯の部屋は婦人用客間
（LADIES' DRAWING ROOM）です。
ここで婦人たちがお茶を楽しみ、友人をもて
なしました。通常は暖炉横にある呼び出し
ベルにより召使が呼ばれ暖炉の火をおこしま
したが、召使に内緒話の邪魔をされたくない場
合には、チリ紙に包んだ石炭が前もって用意
されました。

この部屋の天井も注目に値するもので、紐
状・ペンダント状の紋様が施された繊細な色
柄の漆喰細工でできています。12年間この
城の木彫り細工の仕事を請け負ったルイ・ゴ
ッドフリー（Louis Godfrey）がこの部屋の
鳥とシダの繊細な石の彫刻を手がけました。

9点セットのユニークな節入りトタラ
（totara）製応接間家具は1882年以前に
ジョン・サイム（John Sime）がプラカヌイ
（Purakanui）で自身が切り倒した木でつく
りました。そのうちの8点は1983年にマ
ーガレット・パーカーがオークションで買い
戻しました。1984年には、家具製作者の
孫、R・サイム氏より食器棚が寄贈され9点
セットの再現となりました。背の高いカンタ
ベリー（背の高いキャビネット）も節入りト
タラ製で、ラーナック氏のためにつくられた
ものです。これは1987年に買い戻され、
元の場所に納まりました。このようにして、
最高級の節入りトタラ材家具のコレクション
が出来上がりました。音楽室の節入りトタラ
製のピアノにお気づきになりましたか？世界
で唯一、ここにのみ存在する貴重な品です。
トタラはニュージーランド原産の材木用の巨
木でマオリが軍船（いくさぶね）をつくるの
に用いました。この節入りトタラ材は大変珍
しいものです。ちなみにこの客間の床はリム
（rimu）製です。

正面玄関をはさんで向かい側に書斎
（LIBRARY）があります。ここはラーナ

ック氏が夕食の後国家元首や多くの友人一た
だし男性のみですが一をもてなした場所です。
客間と書斎は対になった部屋として造られ
ていますが、一方は女性向き、他方は男性向
きという風に用途に適した異なった配色とな
っています。これはもちろんビクトリア朝の
風習に従い、夕食後男性と女性が別れて過
したためです。

手作りの草製ほこりよけカバーが付いた背の
高い本棚は、この部屋と客間にある火かご同
様、オリジナルです。部屋の中央にはオタゴ
博物館より借りたゲームテーブルが置かれて
います。黒い中国製の椅子はウィリアム・ラ
ーナックのものだったと言われています。彼
にはゴールドラッシュ期に知り合った中国人
の友人がいました。

書斎を出て右に曲がったところにあるガラス
壁の裏側から、寝室階、子供部屋階および塔
への階段を上ります。7段目で立ち止まり
上を見てください。このジョージ王朝様式の
吊り階段は南半球では唯一のもので、欄干
はマホガニー製、手すりは蒸気で曲げて造
ったのではなく、堅いカウリ材を削って造
ったものです。

階段を上りきった正面の主寝室
（MASTER BEDROOM）は、カウリ材
の鳥目模様入りパネルの付いたオリジナルの
ベッドが据えられています。両吊り窓サッシ
が冷気と隙間風を効果的に防ぎます。ドアの
陰には鶴の飛翔が描かれた手作りの刺繍入り
の大きな絹の壁掛けがかかっています。こ
れは19世紀にスコットランドで手に入れた品
ですが制作は中国です。ベッドの上には「あ
んか」が置かれています。暖炉で熱せられた
石炭をこれにつめ、ベッドを温めました。

ピンクと茶色のカーテンの下がる北寝室
（NORTH BEDROOM）には、オース
トラリア製の家具セットが置かれています。
この家具セットはオーストラリアのさまざま
な品評会で賞を受賞しました。運搬に便利な
ように合い釘とねじで組み立てるようになって
います。オーストラリア産のクルミとカエ
デでできています。お折り用のひざつき台に
はテントステッチが入っています。

主寝室をはさんで向かい側の部屋は
コンスタンスの私室
（CONSTANCE'S BOUDOIR）です。
この部屋は13万5千ドルの費用をかけ20
04年2月に完成された、「3番目の」ラー
ナック夫人の私室の再現です。当時のドレス、
下着、バラソル、アクセサリ等の貴重な品々
で飾られたビクトリア朝の婦人の部屋をご体
験ください。部屋の中央にはウエディングド
レスを着た夫人のマネキンがあります。夫人
は身長152cm、ウエスト48cmと非常に
小柄だったため既製のマネキンでは大きすぎ
てドレスが合わず、ダニーデンの郊外オアマル
（Oamaru）のアーティスト、ドナ・デメ
ンテ（Donna Demente）とジェフ・ミッ
チェル（Jeff Mitchell）に特注することとなり
ました。スズランの模様と繊細なシフォン仕
上げの施された象牙色の絹のドレスは、夫人
の出身地ウェリントンのカコーディ・アン
ド・ステインズ（Kircaldie & Stains）デパ
ートの仕立てによる最高級品です。結婚当時
ラーナック氏は56歳、新婦は35歳でした。
洋服ダンスの中にはビクトリア朝の肌着が展
示されています。

この部屋は最初のラーナック夫人の幽霊が出
るといわされている部屋でもあります。以
前は最初の夫人の部屋として公開されていた
この部屋が2004年に3番目の夫人の部屋
に変わったのを見て寂しがっているかもしれ
ません。

階段は子供部屋階へと続きます。階段吹抜
けにはルカの福音書第8章40・41節およ
び49～56節を布に描いた絵が掲げられて
います。イエス・キリストがヤイロの娘を蘇
生させる場面で、背後には娘の両親、ペテロ、
ヨハネ、それにヤコブがいます。この絵はロ
シア製です。

子供部屋階（NURSERY FLOOR）
には重さ1トンの大理石の風呂がありますが、
これはヘルクラネウム（Herculaneum）遺
跡で発見された風呂の模造品で、オリジナル
はローマ教皇庁にあります。この階のメイン
の部屋は眺望の素晴らしい部屋で、塔の上ま
で行くのはどうも、という方にも外の景色を



楽しんでいただけます。子供用寝室の向かい側の小さな部屋は乳母が寝泊りした部屋です。

浴室の向かい側のドアの向こうには銃眼付き胸壁に至るらせん状の石段があります。胸壁からの眺めは上って見るだけの価値が十分あります。海拔320m、ダニーデンの街から湾をたどると、ポートチャーメーズ (Port Chalmers) を過ぎ岬に至り、今度は入り江と250mの崖が連なる広大な太平洋岸へ、一大パノラマ風景が展開します。見どころは東にハーバー・コーン山 (Harbour Cone)、フーパーズ・インレット (Hoopers Inlet)、サンディマウント (Sandymount)、さらにサンディマウントの後方にはラバーズ・リープ (Lover's Leap) とキャズム (Chasm) があります。岬の方角にはマオリの教会、捕鯨基地跡、そして世界で唯一、人間が近づいて見ることができるアホウドリのコロニーがあります。ペンギンが巣を作っている浜辺もあります。

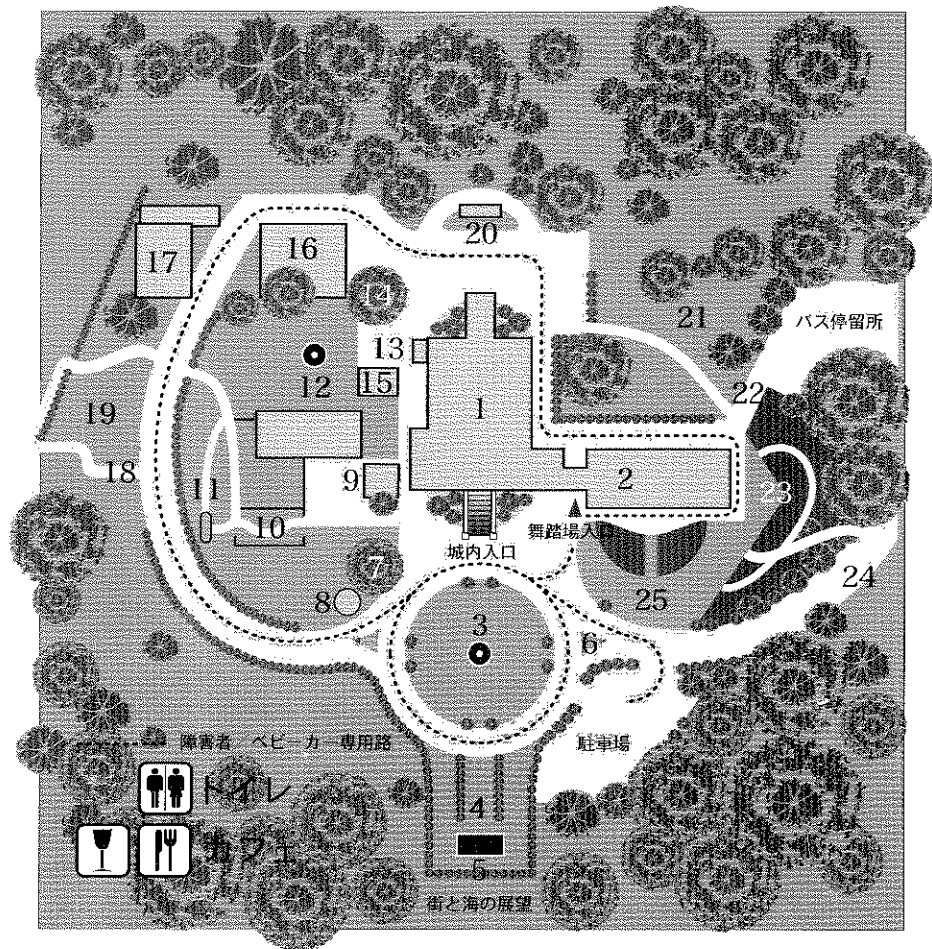
ポートチャーメーズの向かい側、島が二つ浮かんでいる場所の近くには海洋学センター (Marine Studies Centre) があり、中には

公立水族館があります。ダニーデンの街に向かって湾上に、水路を示す目印が続いているのも見えます。

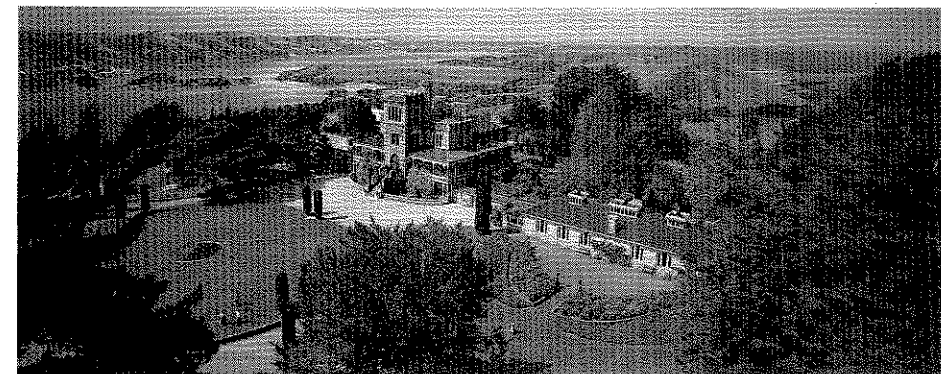
中央階段を下まで戻ります。正面入口手前横のギフトショップではラーナック城ご見学記念の品々やお土産品がお買い求めいただけます。**舞踏室 (BALLROOM)、カフェおよび御手洗**への入口は正面入口を出て急な階段を地上に下りた左側にあります。

ウィリアム・ラーナックは娘ケイトのためにこの舞踏室を建てましたが、明り取りの窓には昔勤めていた「オタゴ第一銀行」(“First Bank of Otago”) から土産に持ってきた窓ガラスを取り付けました。お飲み物と軽食がここでは販売されています。舞踏室の中で、または屋外でもお召し上がりいただけます。庭園のご散策にはカラーの地図をご参照ください。

このたびはラーナック城においてくださりまことにありがとうございます。この貴重なニュージーランドの伝統的建築物の維持と継続的な修復作業は皆様のご支援の賜物です。



- | | |
|--|-----------------|
| 1 城 | 13 城の土牢 |
| 2 舞踏室、カフェ、御手洗 | 14 ヨーロッパパナ |
| 3 大理石の噴水（ピサ製） | 15 乳製品製造所 |
| 4 キングサリのバードラ | 16 馬小屋 |
| 5 内省の池 | 17 ラーナックロッジ |
| 6 『不思議の国のアリス』の
「ジャック」と公爵夫人・・・
「チェシャ猫」はどこに？ | (非公開一ロジのお客さまのみ) |
| 7 杉 | 18 展望台 |
| 8 円蓋 | 19 南洋庭園 |
| 9 ペタンク（鉄球を用いてする
ローンボウリングに似たゲーム）コート | 20 メタンガス製造工場 |
| 10 草花の遊歩道 | 21 温帯多雨林庭園 |
| 11 城の浴槽（1990年に復帰） | 22 玉座 |
| 12 願望成就の井戸 | 23 岩石庭園 |
| | 24 クジラの顎骨 |
| | 25 アザレア・ヒース庭園 |



完璧なセッティング

ご婚礼、ダンスパーティーをはじめとする各種パーティー、同窓会、会合ディナーなどはすべて舞踏室で実施可能。食前酒は庭園またはコンサートリー（展示用温室）・資料展示室で。

ブティック・アコモデーション (Boutique Accommodation: 特色ある建物を用いた豪華な宿泊施設) — ラーナック・ロッジ (Larnach Lodge)

ラーナック城庭園の海に面した側に離れとして建てられたブティック・ロッジ。12ある部屋にはそれぞれ独自の趣向を凝らした当時のデザインを使用。素晴らしい海の眺めとバスルームが全室に。城内の豪華なダイニング・ルームでのディナーはお泊りのお客様のみ可能。ディナーのご予約受付は夕方5時まで。ご朝食は年代物の「馬小屋」跡で。

ステーブル・ステイ (Stable Stay)

1871年に建てられた馬車置き場が心地よい宿泊施設に变身。6部屋。バスルーム共用。

カフェ

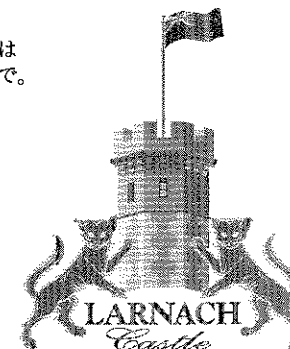
ご休憩、ランチは「舞踏室カフェ」で。午前9:30～午後4:30開店。

ギフトショップ

ご見学の思い出に、お土産品はラーナック城ギフトショップで。

ガーデンマップ

ご入用の方は受付まで。



ラーナック城

Camp Road, Otago Peninsula, Dunedin, New Zealand

TEL: +64-3-4761 616 • Email: larnach@larnachcastle.co.nz

FAX: +64-3-476-1574 • 郵便物送付先: PO Box 1350, Dunedin, New Zealand

URL: <http://www.larnachcastle.co.nz>